

これまでに当院で全身麻酔を受けた患者さんへ
【過去の電子カルテ・麻酔記録の調査研究への使用のお願い】

京都医療センター麻酔科では、「全静脈麻酔時にレミマゾラムを使用したときの術後回復室滞在時間に関する検討：後ろ向き観察研究」という臨床研究を行っております。

研究の概要

本研究は、当院で2020年8月から2022年10月までに全身麻酔の手術を行った患者さんの術後回復室の滞在時間を調査する研究です。

研究の目的

患者さんが全身麻酔後に入室する術後回復室には、手術室と一般病棟の架け橋の役割があります。手術直後の患者さんを十分に観察し、必要に応じて治療などを行うことで状態を安定化させます。術後回復室の退室には、“麻酔の影響から覚めて、患者さんご自身の意識がはっきりしていること”が必要となります。そのため全身麻酔からの覚醒が速やかだと、術後回復室の滞在時間が短くなることが予想されます。

全身麻酔に使用する麻酔薬にはいくつか種類があり、患者さんの状態や手術の種類によって最適な麻酔薬が選択されます。今回の研究では、全身麻酔を受けた患者さんのデータを調査して、手術の時に“レミマゾラム”という麻酔薬を使用した患者さんの術後回復室の滞在時間が短くなったかどうかを検討します。

本研究への参加について

本研究への参加は、患者さんの自由な意思に基づくものであり、参加されたくない場合は、拒否して頂くことができます。その場合は、下記問い合わせ先にご連絡ください。なお、登録を拒否されたことで、日常の診療等において患者さんが不利益を被ることは一切ございません。

調査する内容

年齢・性別や術後回復室の滞在時間などの調査を行います。しかしながら、患者さんの氏名・住所・生年月日など個人を特定する情報は調査に使用いたしません。

対象となる患者さんの利益・不利益

この研究は、過去に安全に実施された手術および麻酔の記録をカルテや麻酔記録から調べる調査です。つきまして、対象となる患者さんに利益及び不利益はありません。同時に、先にも述べましたが、個人情報には調査しないので個人情報が漏洩する心配はありません。

調査期間

2022年11月から2023年12月にかけて当院の医師がカルテや麻酔記録を調査します。

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

問い合わせ先

研究責任者

京都医療センター 手術管理部・展開医療研究部 七野 力（しちの つとむ）

TEL 075-641-9161